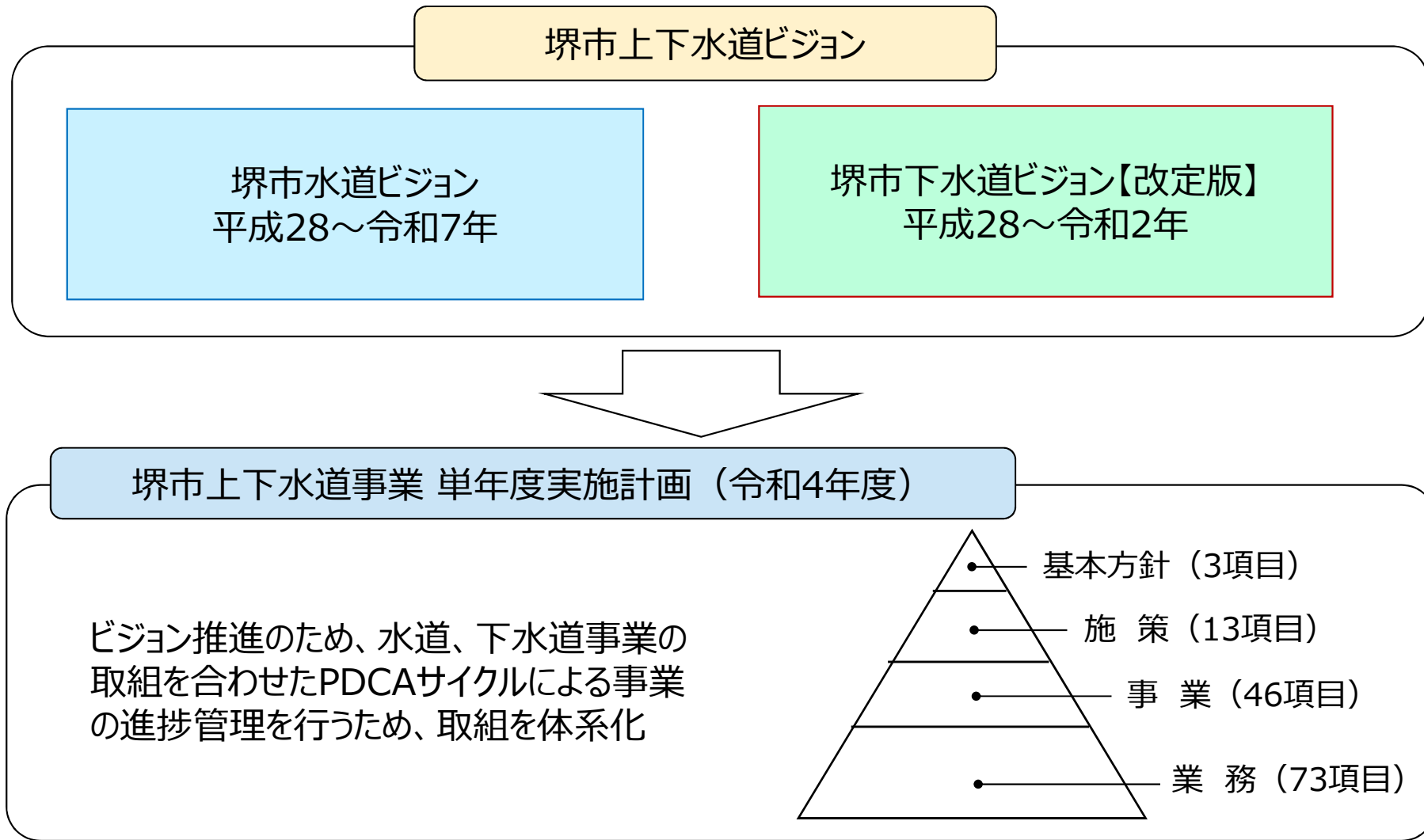
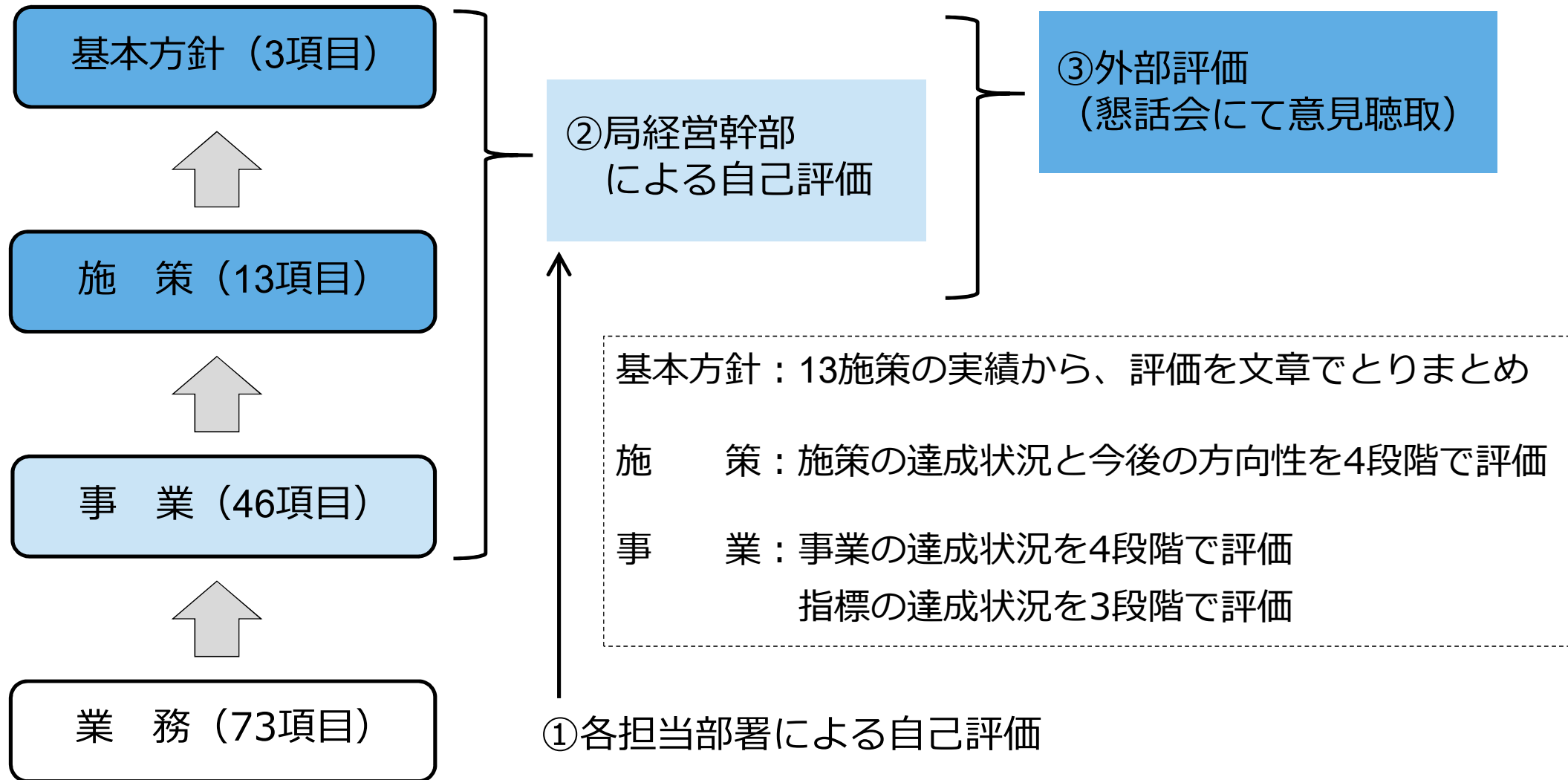


計画評価のながれ・評価方法

(経営診断書 P.39)



(経営診断書 P.39)



(経営診断書 P.47~48)

○施策（13項目）評価

■達成状況

- 「s」 目標を越えて達成した。
- 「A」 目標を達成した。
- 「B」 目標を概ね達成した。
- 「c」 目標を達成しなかった。

■今後の方向性

- 「拡充」 施策の規模拡大や達成時期の前倒しをする。
- 「持続」 施策の進捗に滞りが無く、取組みを継続する。
- 「改善」 施策に進捗に課題があり、取組みを改善する。
- 「縮小」 施策の規模の縮減や達成時期を延期する。

○事業（46項目）評価

■達成状況

- 「s」 目標を越えて達成した。
- 「a」 目標を達成した。
- 「b」 目標を概ね達成した。
- 「c」 目標を達成しなかった。

■指標評価

- 「◎」 目標を越えて達成した。
- 「○」 目標を達成した。
- 「★」 目標を達成しなかった。

(例) 配水池の耐震化率

| 指標評価 | R2年度実績 | R3年度実績 | R3年度目標値 | 達成状況 | |
|---------------------------------|--------|--------|---------|------|-------------------------------|
| 配水池耐震化率 (%) | 77.4 | 77.4 | 77.4 | ○ | R2年度実績： R3年度実績： R3年度目標： |
| (耐震化完了配水池総容量) / (配水池の総容量) × 100 | | | | | |

(経営診断書 P.49)

| 施策(13項目) | 達成状況 | 今後の方向性 |
|------------------------------------|------|--------|
| 1. 安全安心なライフラインの確保 | | |
| (1) 安全で安心な水道水 | A | 持続 |
| (2) 震災に強いまちの実現 | A | 持続 |
| (3) 雨に強いまちの実現 | A | 持続 |
| (4) 危機管理対策の推進 | A | 持続 |
| 2. 将来に向けた快適な暮らしの確保 | | |
| (1) 里道・私道の汚水整備(衛生的に暮らせるまちの実現) | A | 持続 |
| (2) 川や海の水環境が良好に保たれるまちの実現 | A | 持続 |
| (3) 上下水道が安定的に機能するまちの実現(施設の維持管理と更新) | A | 持続 |
| (4) 上下水道が安定的に機能するまちの実現(持続的な企業経営) | A | 持続 |
| (5) 潤いと活力のあるまちの実現 | A | 持続 |
| (6) 地球温暖化対策を推進するまちの実現(環境負荷の低減) | A | 持続 |
| 3. しんらいを築く堺の上下水道への挑戦 | | |
| (1) お客様とのパートナーシップの形成 | - | - |
| (2) 人材育成の充実・運営体制の強化 | A | 拡充 |
| (3) 先進的な取組への挑戦 | A | 拡充 |

施策評価（13項目）

| 施策（13項目） | 達成状況 | 今後の方向性 |
|-----------------------------------|------|--------|
| 1. 安全安心なライフラインの確保 | | |
| （1）安全で安心な水道水 | A | 持続 |
| （2）震災に強いまちの実現 | A | 持続 |
| （3）雨に強いまちの実現 | A | 持続 |
| （4）危機管理対策の推進 | A | 持続 |
| 2. 将来に向けた快適な暮らしの確保 | | |
| （1）里道・私道の汚水整備（衛生的に暮らせるまちの実現） | A | 持続 |
| （2）川や海の水環境が良好に保たれるまちの実現 | A | 持続 |
| （3）上下水道が安定的に機能するまちの実現（施設の維持管理と更新） | A | 持続 |
| （4）上下水道が安定的に機能するまちの実現（持続的な企業経営） | A | 持続 |
| （5）潤いと活力のあるまちの実現 | A | 持続 |
| （6）地球温暖化対策を推進するまちの実現（環境負荷の低減） | A | 持続 |
| 3. しんらいを築く堺の上下水道への挑戦 | | |
| （1）お客様とのパートナーシップの形成 | － | － |
| （2）人材育成の充実・運営体制の強化 | A | 拡充 |
| （3）先進的な取組への挑戦 | A | 拡充 |

〔基本方針1〕安全安心なライフラインの確保

(経営診断書 P.51)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|--|--|------|--------|
| 1) 安全で安心な水道水 | | A | 持続 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①水質の管理 ②水安全計画の推進 ③貯水槽水道の管理 ④鉛製給水管の取替 | <ul style="list-style-type: none"> 水道GLPの中間審査において、水質検査の信頼性が引き続き保証された。 他市の事件事例等を検証し、水安全計画に反映 鉛製給水管の取替工事を210件実施 【関連指標】 <ul style="list-style-type: none"> 鉛製給水管率 5.0% (目標: 5.1%) 水質基準不適合率 0.0% (目標: 0.0%) | | |
| 評価 | | | |
| <p>水質モニターによる連続監視や水質基準51項目の自己検査の結果に基づく適切な水質検査を実施に加え、水質を悪化させる水道水の滞留防止に取り組んだ。また、腐食による漏水発生や水質への影響が懸念される鉛製給水管の取替などを計画的に進め、確実な水質監視と水質事故などのリスク管理を進めた。</p> | | | |
| 方向性 | | | |
| <p>新たな経営戦略においても、大阪広域水道企業団から受水した良質な水道水を適正に維持管理し、安全な水の供給に取り組む。</p> | | | |

〔基本方針1〕安全安心なライフラインの確保

(経営診断書 P.55)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|---|---|------|--------|
| 2) 震災に強いまちの実現 | | A | 持続 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①優先耐震化路線の構築 ②配水池の耐震化 ③下水道施設の耐震化 | <ul style="list-style-type: none"> ・水道の優先耐震化路線を計画を6.4km構築 ・家原寺配水池配水場更新工事における工期短縮を図ったが、当初契約工期までは短縮することができなかった。 ・下水道の重要な管きよの耐震化工事を0.3km実施 ・下水道における土木施設の耐震化に向け、耐震診断に着手 【関連指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・優先耐震化路線耐震化率 97.4% (目標：96.0%) ・重要な管きよの耐震化率 97.8% (目標：97.8%) | | |
| 評価 | | | |
| <p>水道事業では、配水池の耐震化事業で遅れが生じているが、その他の耐震化工事については計画通り実施した。なお、優先耐震化路線については計画以上に構築した。下水道事業では、重要な管きよの耐震化工事などを計画通り実施した。これらにより、被災時の被害の未然防止や軽減に貢献した。</p> | | | |
| 方向性 | | | |
| <p>新たな経営戦略においても、災害時に上下水道施設の被害を最小限にとどめ、給水機能と汚水処理機能の確保に取り組む。</p> | | | |

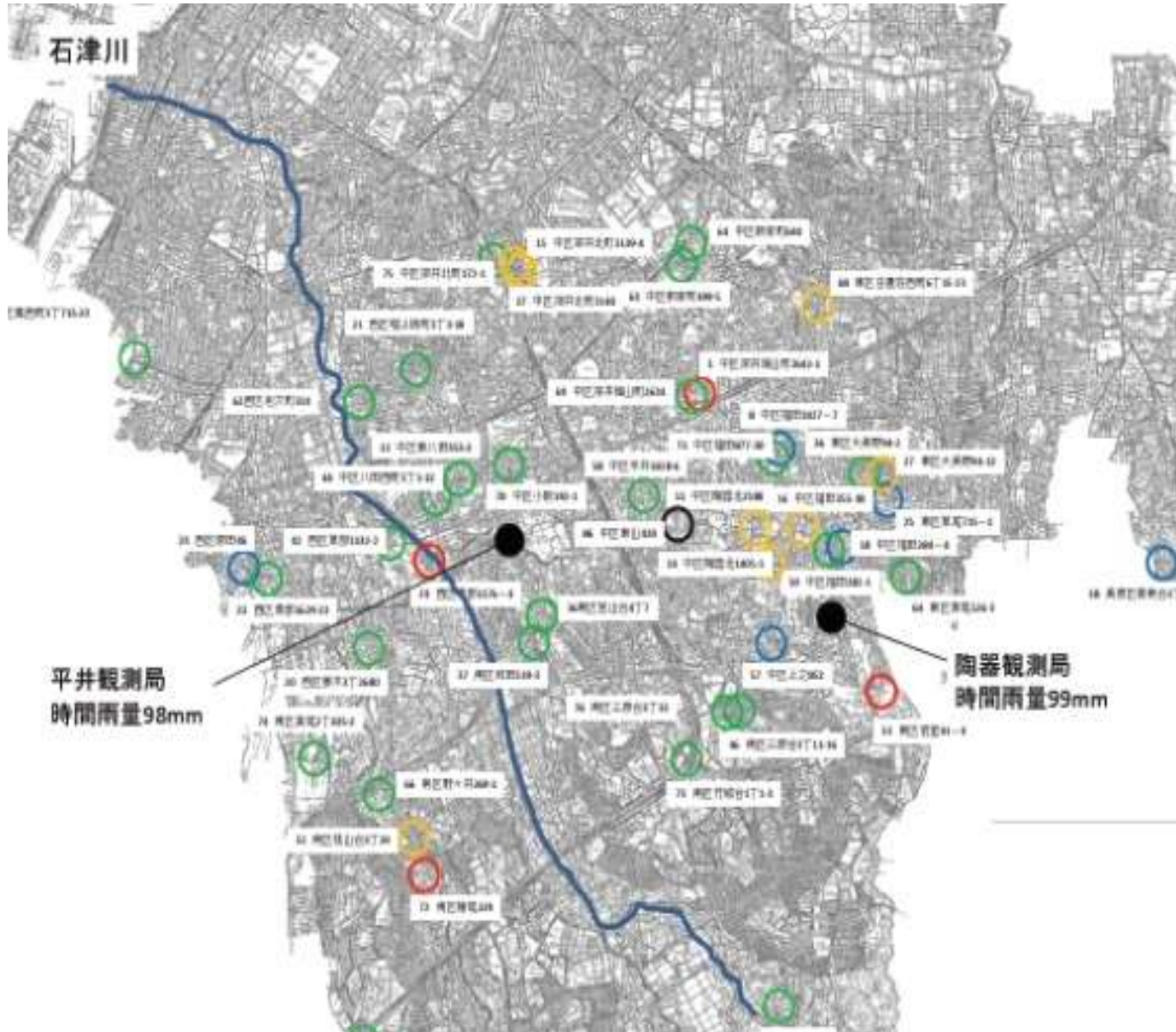
〔基本方針1〕安全安心なライフラインの確保

(経営診断書 P.57)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|--|---|------|--------|
| 3) 雨に強いまちの実現 | | A | 持続 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①雨水整備事業の推進 ②雨水貯留浸透の推進 ③情報収集・提供の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・金岡地区の対策工事を推進 ・古川下水ポンプ場建設工事（神南辺地区ほか）における地下土木構造物の構築が概成 ・令和4年9月2日大雨による被害地区に対して、被害状況に応じた対策を検討・実施 【関連指標】 ・重点地区の浸水対策実施率 85.8% （目標：85.8%） | | |
| 評価 | | | |
| 浸水危険解消重点地区のうち、金岡地区や古川下水ポンプ場建設工事を計画どおり実施した。その他地区では、9月2日大雨により被害を受けた地区における被害状況に応じた対策を検討・実施するなど「きめ細かい対策」を行い、浸水安全度の向上に貢献した。 | | | |
| 方向性 | | | |
| 新たな経営戦略においては、局地的な大雨等に対し、浸水危険解消重点地区等のハード対策や、雨水流出抑制施設の設置促進等のソフト対策の浸水対策を引き続き進める。 | | | |

令和4年9月2日大雨対応による被害状況

(経営診断書 P.59)



- 堺市では既往最大を越える降雨
(陶器観測局で時間雨量99mm)
- 住宅浸水27件 (30棟)
- 店舗など23件

- (Red) : 床上浸水
- (Blue) : 床下浸水
- (Green) : 道路冠水
- (Yellow) : 水路等溢水

〔基本方針1〕安全安心なライフラインの確保

(経営診断書 P.60)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|--|---|------|--------|
| 4) 危機管理対策の推進 | | A | 持続 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①災害対応力の強化 ②事故対策の強化 ③応急給水対策の強化 ④緊急連絡管の整備 ⑤電源の確保 ⑥マンホールトイレの整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・事故発生の円滑な情報共有や指揮命令を確保するため、Web会議システムやデジタルサイネージを活用した。 ・1月に到来した大規模な寒波による断水や出水不良に対して、関係部局と連携・対応し、マニュアルの見直しにつなげた。 ・区役所4か所と指定避難所1か所に災害時給水栓を設置した。当該指定避難所についてはマンホールトイレの検討も着手した。 | | |
| 評価 | | | |
| <p>ハード対策として指定避難所や区役所に、災害時給水栓やマンホールトイレの整備を推進した。ソフト対策として、委託業者との訓練や寒波への対応などからマニュアル等の見直しを行い、災害対応力を強化した。また、各イベント等で積極的に飲料水備蓄等を啓発し、市民の防災意識の向上に寄与した。これらにより、被災時に市民生活への影響を最小限に抑えるための取組を推進した。</p> | | | |
| 方向性 | | | |
| <p>新たな経営戦略においても、引き続き、災害対応力の向上と自助・共助の活動促進に取り組む。</p> | | | |

| 施策（13項目） | 達成状況 | 今後の方向性 |
|-----------------------------------|------|--------|
| 1. 安全安心なライフラインの確保 | | |
| （1）安全で安心な水道水 | A | 持続 |
| （2）震災に強いまちの実現 | A | 持続 |
| （3）雨に強いまちの実現 | A | 持続 |
| （4）危機管理対策の推進 | A | 持続 |
| 2. 将来に向けた快適な暮らしの確保 | | |
| （1）里道・私道の汚水整備（衛生的に暮らせるまちの実現） | A | 持続 |
| （2）川や海の水環境が良好に保たれるまちの実現 | A | 持続 |
| （3）上下水道が安定的に機能するまちの実現（施設の維持管理と更新） | A | 持続 |
| （4）上下水道が安定的に機能するまちの実現（持続的な企業経営） | A | 持続 |
| （5）潤いと活力のあるまちの実現 | A | 持続 |
| （6）地球温暖化対策を推進するまちの実現（環境負荷の低減） | A | 持続 |
| 3. しんらいを築く堺の上下水道への挑戦 | | |
| （1）お客様とのパートナーシップの形成 | — | — |
| （2）人材育成の充実・運営体制の強化 | A | 拡充 |
| （3）先進的な取組への挑戦 | A | 拡充 |

〔基本方針2〕 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.65)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|--|--------------------------|------|--------|
| 1) 里道・私道の污水整備 (衛生的に暮らせるまちの実現) | | A | 持続 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①里道・私道の污水整備 | ・2路線 (169m) の公共下水道の布設が決定 | | |
| 評価 | | | |
| 未普及地区において、土地使用承諾を取得した路線の污水整備を推進した。 | | | |
| 方向性 | | | |
| 新たな経営戦略においても、整備が必要な地区や一定の条件を満たした里道・私道への污水整備を進める。 | | | |

〔基本方針2〕 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.66)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|--|---|------|--------|
| 2) 川や海の水環境が良好に保たれるまちの実現 | | A | 持続 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①処理の高度化と安定化 ②合流式下水道の改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 泉北水再生センターにおいて、包括委託業者や金沢大学と連携し、膜分離活性汚泥法（MBR）施設について、膜更新の検討やし尿投入による薬品の削減について検証 ・ 三宝水再生センターにおいて、省エネルギー・低コスト運営に取り組んだ。 ・ 新たな取組として、送風機運転の最適化を試行し、電力使用量をR1年度比で13.3%削減 | | |
| 評価 | | | |
| 三宝水再生センターにおいて、処理水質を経済的かつ安定的に維持するため、水質管理と効率的な運転管理の取組を継続して実施し、薬品費や動力費を削減することができた。また、泉北水再生センターでは、引き続き、金沢大学との共同研究を行い、MBRの膜閉塞抑制等に取り組んだ。 | | | |
| 方向性 | | | |
| 新たな経営戦略においても、汚水の適正処理の推進や公共用水域への汚水流出防止により、安全で良好な水環境を維持する。 | | | |

〔基本方針2〕 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.67)

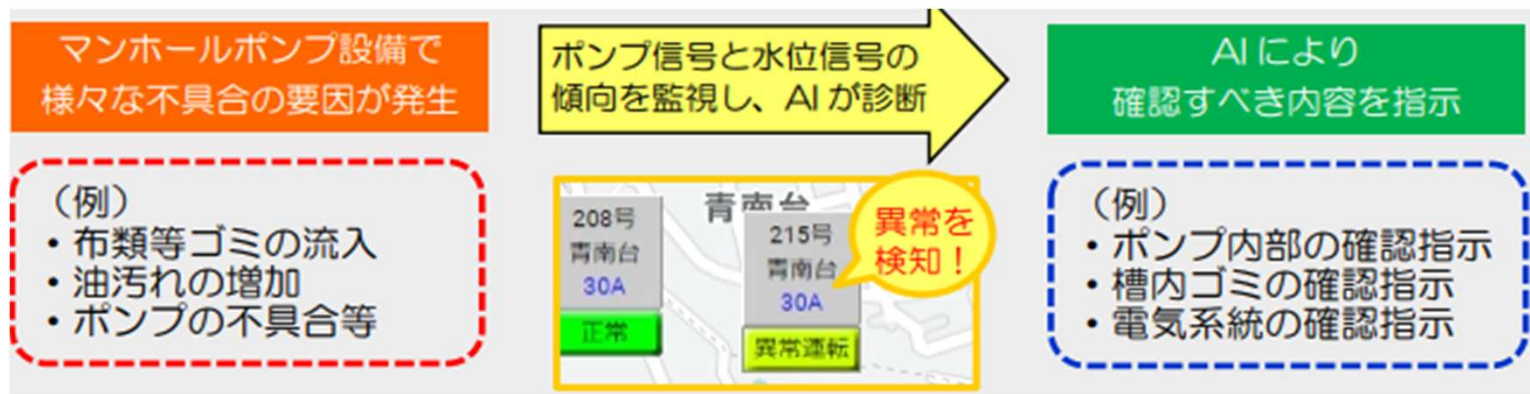
| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|--|--|------|--------|
| 3) 上下水道が安定的に機能するまちの実現（施設の維持管理と更新） | | A | 持続 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①基幹管路の更新 ②配水支管の更新 ③管路の維持管理 ④配水池の維持管理 ⑤機械・電気・計装設備の更新 ⑥下水道設備のアセットマネジメント ⑦下水道管きよのアセットマネジメント ⑧雨水施設の適正な管理の推進 ⑨下水道施設の統廃合 | <ul style="list-style-type: none"> ・水道管路の基幹管路を7.6km及び配水支管を26.2kmを更新 ・配水支管にあたっては、業務効率化等のため簡易DB方式の試行工事を実施、課題解消に向けた検討を継続 ・下水道の51kmの老朽管調査及び約7.0kmの改築更新等を実施 ・マンホールポンプの保守点検業務について、AI診断機能を搭載した監視装置による予防保全型の仕様として業務を開始 <p>【関連指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹管路の耐震化率 31.6%（目標：31.3%） ・水道管路耐震化率 31.8%（目標：30.6%） ・老朽管きよの調査率 90.6%（目標：87.0%） | | |
| 評価 | | | |
| <p>水道事業では、管路の更新工事及び維持管理業務等を計画通り実施した。下水道事業では、アセットマネジメントに基づく設備や管きよの調査・改築更新を計画どおり実施し、水再生センター及び下水道管きよの維持管理における令和5年度から新たな業務開始のため、包括的民間委託による契約を締結した。これらにより、効率的に施設の健全度を保つ取組を推進した。</p> | | | |
| 方向性 | | | |
| <p>新たな経営戦略においては、アセットマネジメント手法を活用し、将来の改築更新需要を見据えた投資量の平準化を図りながら、引き続き計画的な施設管理を行う。</p> | | | |

マンホールポンプのAI診断開始

(経営診断書 P.90)

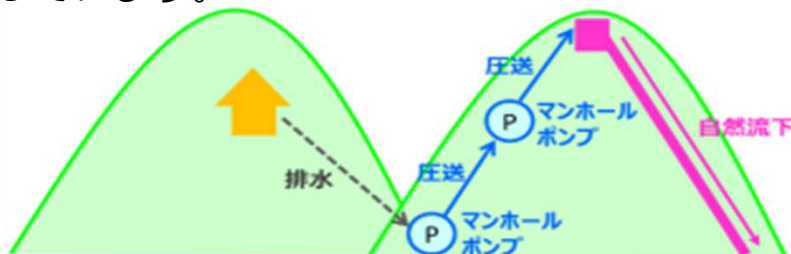
これまでは、マンホールポンプ設備の故障発生後にその都度緊急対応を実施していた。

本システムの導入により、AIが故障発生前に設備異常を未然に検知及び対応作業を指示するため、突発的なマンホールポンプ設備の設備停止を予防することができる。

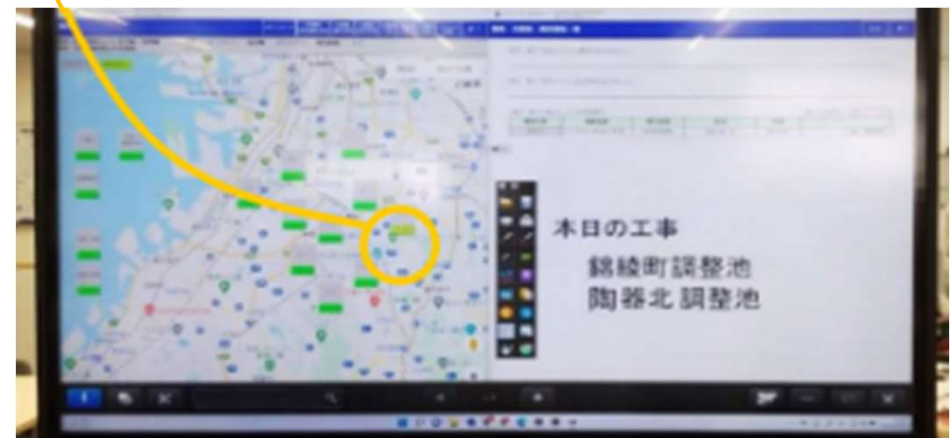


【マンホールポンプ設備とは】

自然流下で流せない場所からの生活排水をくみ上げて、水再生センターに送るポンプ設備です。道路上の下水マンホールの中に、ポンプが埋設されており、市内では約200機設置しています。



クラウド型システム画面



〔基本方針2〕 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.73)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|---|---|------|--------|
| 4) 上下水道が安定的に機能するまちの実現（持続的な企業経営） | | A | 持続 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①資産・資源の有効活用による収入の確保 ②水洗化の促進 ③企業債の計画的な借入 ④受水費の削減 ⑤収納コストの削減と収納率の向上 ⑥企業債の更なる活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・浅香山浄水場跡地の売却公募が参加申請業者が無かったことから、取りやめとなった。 ・泉北水再生センターの低利用地について、R5年度より教育委員会に貸し付ける方向で協議 ・不明水対策検討委員会による取組や老朽化した管路更新や漏水調査により、有収率が上昇（93.7%） ・スマートフォンアプリ「すいりん」の利用率が12.1%まで拡大し、ペーパーレス化や業務効率化に貢献 | | |
| 評価 | | | |
| <p>浅香山浄水場跡地売却が公募取り止めとなったが、その他の資産の利活用、収納率や水洗化率の向上などの収入確保に取り組み、支出削減では、IoT技術を用いた漏水調査などの経営改革に取り組んだ。これらにより、動力費・燃料費の高騰による影響を除くと、当初予算以上の純利益を確保できた。</p> | | | |
| 方向性 | | | |
| <p>今後は、新たな経営戦略で定めた収支見通しに基づき、事業の推進や企業債の借入を計画的に行い、引き続き経営改革に取り組む。</p> | | | |

〔基本方針2〕 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.77)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|--|---|------|--------|
| 5) 潤いと活力のあるまちの実現 | | A | 持続 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①再生水送水事業の継続 | <ul style="list-style-type: none"> ・鉄砲町地区の再生水送水事業において、月2回の水質検査を実施し、検査結果を利用者に報告した。 ・R3年度に事業休止した堺浜地区においては、利用者への水道への切替に関する手続き等が完了した。 | | |
| 評価 | | | |
| 鉄砲町地区における適切な運用と維持管理を行った。 | | | |
| 方向性 | | | |
| 新たな経営戦略においても、下水道資源・エネルギーの利用を推進し、カーボンニュートラルへ貢献する。 | | | |

〔基本方針2〕 将来に向けた快適な暮らしの確保

(経営診断書 P.78)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|---|--|------|--------|
| 6) 地球温暖化対策を推進するまちの実現（環境負荷の低減） | | A | 持続 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①受水圧を利用した送水システムの整備 ②小水力発電設備の設置 ③省エネ・省CO ₂ 機器の導入 ④水再生センターの運転管理の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・ R10年度の大阪広域水道企業団からの新分岐接続に向けて、管路の整備等を実施 ・ 配水場において、小水力発電設備の運用に加え、さらなる脱炭素化推進のため、民間企業とPPAなどの導入可能性について検討 ・ 水再生センターにおいて、晴天日における機器の稼働状況の見直しなどを検証 ・ 石津水再生センター沈砂池設備において、トップランナー機器を設置し、運転を開始 | | |
| 評価 | | | |
| <p>水道事業では、大阪広域水道企業団の受水圧を利用した新たな送水システムの整備を推進し、配水場内では小水力発電設備を効率的に運用した。下水道事業では、水再生センターにおける運転管理の工夫や省エネ機器の運用を実施した。これらにより、環境負荷の低減に貢献した。</p> | | | |
| 方向性 | | | |
| <p>新たな経営戦略においても、エネルギー使用量の削減や再生可能エネルギーの利用を推進し、カーボンニュートラルへ貢献する。</p> | | | |

| 施策（13項目） | 達成状況 | 今後の方向性 |
|-----------------------------------|------|--------|
| 1. 安全安心なライフラインの確保 | | |
| （1）安全で安心な水道水 | A | 持続 |
| （2）震災に強いまちの実現 | A | 持続 |
| （3）雨に強いまちの実現 | A | 持続 |
| （4）危機管理対策の推進 | A | 持続 |
| 2. 将来に向けた快適な暮らしの確保 | | |
| （1）里道・私道の汚水整備（衛生的に暮らせるまちの実現） | A | 持続 |
| （2）川や海の水環境が良好に保たれるまちの実現 | A | 持続 |
| （3）上下水道が安定的に機能するまちの実現（施設の維持管理と更新） | A | 持続 |
| （4）上下水道が安定的に機能するまちの実現（持続的な企業経営） | A | 持続 |
| （5）潤いと活力のあるまちの実現 | A | 持続 |
| （6）地球温暖化対策を推進するまちの実現（環境負荷の低減） | A | 持続 |
| 3. しんらいを築く堺の上下水道への挑戦 | | |
| （1）お客様とのパートナーシップの形成 | — | — |
| （2）人材育成の充実・運営体制の強化 | A | 拡充 |
| （3）先進的な取組への挑戦 | A | 拡充 |

〔基本方針3〕 しんらいを築く堺の上下水道への挑戦

(経営診断書 P.81)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|--|--|------|--------|
| 1) お客さまとのパートナーシップの形成 | | — | — |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①双方向コミュニケーションの確立 ②お客さまとの協働体制の拡充 ③お客さま対応の向上と事業の啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ・対面型イベントにおける来場者へのアンケートや市政モニターアンケートを活用し、利用者の声を広く抽出 ・ホームページをリニューアルし、セキュリティ性や検索性・利便性の向上を図った。 ・堺市健康福祉局と連携した広報の取組が評価され、GKP広報大賞のグランプリ受賞及び初代殿堂入りを果たした。 ・行政手続き47件をオンライン化し、窓口への来庁レスを推進 | | |
| 評価 | | | |
| <p>広報・広聴の取組として、利用者等から広く意見を収集し、事業内容や今後の広報に反映した。中でも、ICTの活用や局の垣根を超えた広報活動が対外的にも高く評価された。お客様対応の向上として、営業業務等における新たな包括的民間委託の業務開始に併せ、モニタリング結果を見える化し、行政手続きのオンライン化等により、利用者サービスの向上を図った。</p> | | | |
| 方向性 | | | |
| <p>新たな経営戦略では、3レス（来庁レス・キャッシュレス・ペーパーレス）の推進をはじめとする利用者サービスの向上や、広報・広聴への満足度を向上させることで、利用者との信頼関係構築を推進する。</p> | | | |

GKP広報大賞グランプリ受賞及び初代殿堂入り

(経営診断書 P.84)

■受賞内容

| | 堺まちなかマンホールウォーク | 健活アプリ「アスマイル」ウォークラリー |
|------|--|---|
| 開催期間 | 令和4年6月21日～7月21日 | 令和4年10月26日～ 継続中 |
| 取組概要 | 堺アルフォンス・ミュシャ館をスタート地点とし、市内3箇所にあるデザインマンホール蓋を巡る3種類のウォーキングコースを設定。 全コースに参加した方に、上下水道関連の防災グッズを抽選で贈呈。 | 健活アプリ「アスマイル」に付加されているGPS機能を活用して、上下水道事業ゆかりのスポットを巡る約3.8kmのウォーキングコースを設定。 設定された中継ポイントを経由してゴールすれば、アスマイルポイントを獲得 |
| 参加者 | 279人（平均71.7歳、最高89歳） | 毎月250人前後（3月末時点） |

■健活アプリ「アスマイル」ウォークラリー

- 上下水道事業ゆかりのスポットを巡るウォーキングコース（約3.8km）を設定し、健康増進を図りながら上下水道事業に興味を持ってもらう。
- アスマイルのGPS機能を活用することで、ウォーキングコースに中継ポイントを設定でき、ゴールされた方にアスマイルのポイントを付与



〔基本方針3〕 しんらいを築く堺の上下水道への挑戦

(経営診断書 P.85)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|---|--|------|--------|
| 2) 人材育成の充実・運営体制の強化 | | A | 拡充 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①自ら考え行動する職員の育成 ②機能的、効率的な組織体制の確保 ③広域連携の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 堺市立総合医療センターと連携し、出張健康教室やアプリを活用した職員の健康増進を推進した。 「堺市上下水道局包括的民間委託に係るモニタリング基本方針」を確立し、民間と共に育つ仕組みの構築に取り組んだ。 「府域一水道に向けたあり方協議会」において、「大阪府水道基盤強化計画」の策定に向けて協議 | | |
| 評価 | | | |
| <p>新たな経営戦略の策定に併せて、企業力向上に向けた取組の制度設計を行った。公民連携では、新たに開始する3つの包括的民間委託について民間ともに育つ仕組みを構築するため、モニタリング体制の強化に取り組みました。広域連携では、「府域一水道に向けたあり方協議会」で議論し、経営基盤の強化を推進した。</p> | | | |
| 方向性 | | | |
| <p>新たな経営戦略では、更なる企業力の向上や広域連携・公民連携などにより経営基盤の強化を図る。</p> | | | |

〔基本方針3〕 しんらいを築く堺の上下水道への挑戦

(経営診断書 P.89)

| 施策名 | | 達成状況 | 今後の方向性 |
|--|--|------|--------|
| 3) 先進的な取組への挑戦 | | A | 拡充 |
| 事業 | 主な実施内容 | | |
| ①先進的な取組の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・地下埋設物の3Dマップ化など5件の実証実験を実施、本市業務への適合性を検証 ・漏水が多発するエリアにIoT技術を活用した監視型センサーを設置し、地下漏水等の早期発見につなげた。 ・マンホールポンプに、AI診断機能を搭載したクラウド監視システムを導入し、予防保全型の維持管理体制を構築 | | |
| 評価 | | | |
| <p>R4年度まで運用していた「DXアクションプラン」の取組内容を総括し、新規や継続案件については、新たな経営戦略に引き継いだ。個別取組では漏水調査やマンホールポンプの維持管理業務においてICT技術を用いた業務効率化を図り、その他の民間事業者の技術についても積極的に実証実験を行った。</p> | | | |
| 方向性 | | | |
| <p>新たな経営戦略においても、社会の変革にスピード感を持って対応していくため積極的にDXを推進し、利用者サービスの向上及び業務効率化に取り組む。</p> | | | |